

施設野菜のアブラムシ類に対するハイブリッド・バンカー法

特性の異なる二種類の天敵の複合利用により、施設野菜のアブラムシ類を長期間安定的に防除可能である

背景・目的

- ・施設野菜での農薬散布は重労働である
- ・アブラムシ類は農薬への抵抗性を発達させやすいため、化学農薬に代わる防除手段が必要
→施設野菜における省力的防除手段としてバンカー法を開発

成果の内容

エンバク等のバンカー植物



代替餌のアブラムシ



寄生蜂(コレマンアブラバチ)



天敵

捕食性天敵(ヒメカメノコテントウ)

施設内で天敵がアブラムシ類を待ち伏せする維持・増殖技術を開発

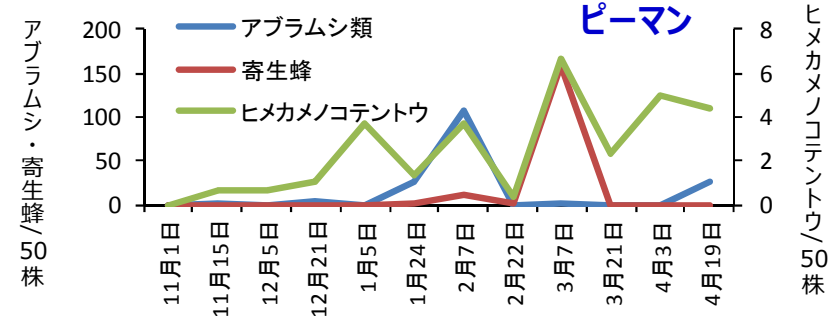
「ハイブリッド・バンカー法」の基本的な手順

バンカー植物 播種からの日数	作業
-14日	資材の発注
0日	バンカー植物の播種(1回目) 代替寄主(餌)の到着(※)
+5~7日	代替寄主の接種
+12~17日	天敵の放飼
+45日	バンカー植物の播種(2回目)

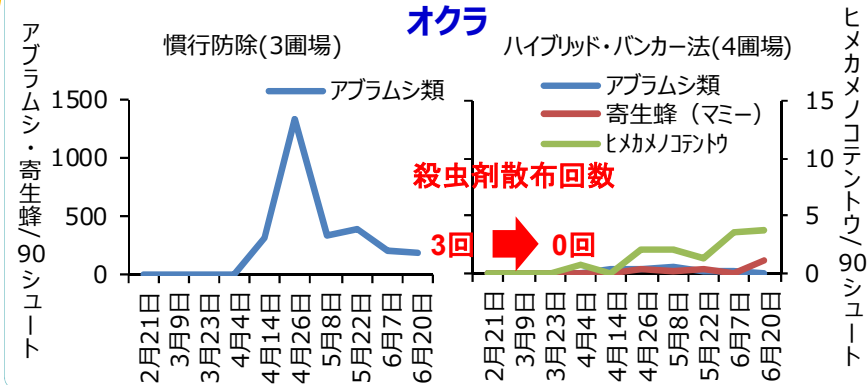
※到着後、室温で保管する。



導入メリット



生産地の全実証圃場でアブラムシ類防除ゼロを実現



期待される効果

- ・施設内での農薬散布に伴う重労働からの解放
- ・持続的害虫管理による生産安定

普及対象・範囲
県内施設栽培野菜農家